レッスンガイド

オブジェクトのパワー倍率を調整

オブジェクト倍率を使って、レイヤーを追加せずに指令パワーを変化させます。

このガイドはAIで翻訳されています。重要な手順は英語の原文と照合してください。

切断状態で行うソフトウェア練習

機械なしを選択したまま、未接続の状態を保ちます。プロジェクトには機械プロファイルがありません。ソフトウェアのプレビューに必要な場合は出力を有効にします。例の値は材料設定ではありません。各レッスンパックは専用のフォルダーに保存してください。



共有レイヤーパワーを60%にしたデモ。指令パワー＝レイヤーパワー×オブジェクトのパワー倍率／100。

1. **power-scale-start.lzrproj**を開きます。三つの20 mmの正方形は、パワー**60%**、速度**1200 mm/min**の「線」レイヤーを共有しています。

2. アウトライナーで**中央の正方形**を選択します。プロパティで、**パワー倍率 %を50**に設定し、EnterまたはReturnを押します。

3. **右の正方形**を選択し、倍率を**25%**に設定します。左の正方形は100%のままにします。オブジェクトを移動したりサイズ変更したりする必要はありません。

4. 「レイヤー」を確認します。共有パワーは60%のままです。パワー倍率はその値に乗算されるもので、置き換えるものではありません。

5. プレビューを開き、「移動を表示」を非表示にして、**パワー別のシェード**を有効にします。予定されているパワーの濃淡を比較します。

6. プレビューを閉じます。中央の正方形を100%に戻してから、50%に戻してみます。別のコピーを保存し、**power-scale-finished.lzrproj**と比較します。

自主練習

自主練習

power-scale-practice.lzrprojを開きます。共有レイヤーを**40%**に保ちます。左の正方形は**100%**のままにし、中央の正方形を**75%**、右の正方形を**25%**に設定します。

□ レイヤーを1200 mm/minに保ち、三つの正方形のサイズと位置をすべて維持します。

□ プレビューのシェーディングを確認する前に、各指令パーセンテージを計算します。

□ 自分用のコピーを保存し、power-scale-practice-answer.lzrprojと比較します。

左の正方形の指令パワー：

中央の正方形の指令パワー：

右の正方形の指令パワー：

予想外に弱いオブジェクトを一つ診断

すべてのオブジェクトの共有レイヤーを変更する前に、そのオブジェクトのパワー倍率を確認します。コピーしたオブジェクトは倍率を引き継いでいることがあります。

解説付きの答え

解説付きの答え

練習計算
40 x 100 / 100 = 40%. 40 x 75 / 100 = 30%. 40 x 25 / 100 = 10%.

倍率とサイズ
パワー倍率はオブジェクトの倍率を変更します。すべての正方形の形状は20 x 20 mmのままです。

プレビューの解釈
「パワー別のシェード」は予定パワーを表示します。彫刻の濃さを予測するものではありません。材料、速度、焦点も引き続き影響します。パワー倍率は機械のS値の最大値とは別のものです。

power-scale-start.lzrproj
デモ：レイヤー60%、すべての倍率は最初100%。

power-scale-finished.lzrproj
デモの答え：倍率は100%、50%、25%。

power-scale-practice.lzrproj
練習：レイヤー40%、すべての倍率は最初100%。

power-scale-practice-answer.lzrproj
練習の答え：倍率は100%、75%、25%。

デモで使用したリリースでは、パワー倍率を0から100%まで設定できます。倍率を100%にすると、共有レイヤーのパーセンテージ全体が復元されます。

デモで使用したBeam Bench 0.2.37のインターフェースに対応しています。後のバージョンではパネルレイアウトが異なる場合があります。